



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：経済状況

(6月19日付現地報道)

1. 独国の船級協会からの安全および環境基準検定の停止 (19日付イラン・ニュース紙)

ドイツロイド船級協会 (Germanischer Lloyd, 1867年ハンブルクに設立) が、イランの NITC (National Iranian Tanker Company, イラン国営タンカー会社) および IRISL (Islamic Republic of Iran Shipping Lines, イラン国営船社) に対する安全および環境基準検定を停止したことが、UANI (United Against Nuclear Iran, 統一反原子カイラン。ニューヨークに本拠を置く米国のロビー団体) への書簡で明らかになった。船級協会からの検定がなければ、国際港への入港はできなくなる。同様の動きとして、英国のロイド船級協会 (Lloyd's Register of Shipping, 1760年ロンドンに設立)、仏国のビューロー・ベリタス (Bureau Veritas, 1828年パリに設立) も、イラン向けの活動を停止している。

2. 米国のスイスに対する反応 (19日付ケイハーン・インターナショナル紙)

EU および米国の制裁が7月1日に実施される中で、米国のスイスに対するフラストレーションはたまる一方である。バイヤー駐スイス米国大使は「我々は失望している。(スイスには) EUの対イラン制裁に加わってもらいたい」と発言しているが、スイス連邦経済省側は「連邦参事会は対イラン制裁の最終決定を表明しない」としている。スイス経由でイラン原油の取引または金融決済がどれだけなされているかは不明である。

3. ガラス繊維シート工場労働者の解雇 (19日付イラン・ニュース紙、ILNA通信の引用)

ケルマーン州にあるガラス繊維シートを製造するケルマニットファクトリーが、閉鎖寸前の状況にあり220人が解雇されると、この工場の労働活動家が述べた。この工場では原材料にアスベストを使用しているが、発がん性のあるアスベストは、環境当局によって厳しく規制されているため、供給が停止される恐れがある。

4. 化学肥料製造工場の操業停止 (19日付イラン・ニュース紙、ILNA通信の引用)

科学肥料製造業者の労働団体は、イラン国内の化学肥料製造工場がストップしており、原因は政府がイラン国内から化学肥料を購入せず中国からの低品質な肥料を購入しているためであると非難している。

5. 石油化学製品の生産量（19日付イラン・デイリー紙）

イラン暦 1391 年の第 1 四半期（2012 年 3 月 20 日～6 月 20 日）において、石油化学製品の生産量は 700 万トン以上にのぼり、前年比 9% 増となっている。NPC（National Petrochemical Company, イラン国営石油化学会社）によると、新たなプロジェクトによる生産開始がなされており、制裁による影響はないという。

6. 補助金現金給付（19日付ハムシャフリー紙）

政府は、3 月 25 日に給付された補助金現金給付（28 万リヤル）については、パン購入への助成であり、補助金合理化第二弾はこれにより開始され、今まで引き出せなかった 28 万リヤルが利用可能となったと発表した。パン購入への助成は本年中の措置であると付け加えている。